特集
バガヴァンと新インド首相

2014年5月26日、ナレンドラ モディ氏が第十八代インド国首相に就任しました。ナレンドラ モディ氏は三十年にわたるバガヴァンの帰依者です。モディ氏は2002年以降頭角を現し、次期インド国首相候補に挙げられるようになりました。

2003年11月7日に、モディ氏はスワミからインタビューに呼ばれました。その際、モディ氏はゲストブックに次のような言葉を書き残しています。

この神聖な地では、英知と信仰と科学が見事に調和しており、世界中のあらゆる信条・信仰が尊重されている。
それは感動である。
それは奮い立たせてくれる。
それは意識がある。
それは体験である。
それは内的世界の表れである。
それは内的世界への入り口である。
それは「私」から救世へと導く。
それは究極の存在と出会う試みである。

次の写真は、2004年と2007年に、当時グジャラート州首相を務めていたモディ氏が、プラシャーンティ ニラヤムとチェンナイのスンダラム[一]を訪問した際に撮影された写真です。

一 スンダラム：チェンナイ市内にあるババの住居

2011年４月26日、グジャラート州首相(当時)であったモディ氏は、プラシャーン ティニラムを弔問に訪れ、バガヴァンに最後の挨拶を捧げました。

モディ氏とバガヴァンの交流は約三十年に及んでいます。バガヴァンのご逝去に際してモディ氏は「ババは、人類を鼓舞し、無私の奉仕という道を歩むよう導き続けるでしょう」「ババは、謙虚さと貧しい人々へ奉仕したこと、病人を癒したこと、無償の教育を広めたことによって、人々の心を捕らえました。ババは偉大なインド文化と精神性を世界に広めました」と語りました。

モディ氏は、自分はサティヤ サイ ババの生き方に大きな影響を受けたと語っています。そして、貧しい人々に奉仕するために、バガヴァンから祝福をいただいたことを大いなる幸運と考えています。彼は「貧しい人々へ奉仕することが、逝去された魂への最高かつ最大の贈り物になるでしょう」と語りました。

アルン カリデハルは、1999年から2001年まで、サティヤサイ大学の経営学修士課程で学んだのち、2001年から2005年まで、プラシャーンティ デジタル スタジオで働きながら、バガヴァンの身の回りのお世話もしていました。彼は、ハート2ハート電子ジャーナルの創設メンバーの一人です。

モディ氏の首相就任が決まった

直後、カリデハル氏は次のようなコメントをＳＮＳに投稿しました。

「わくわくしている。言葉にならない。州と国家にとってよき日がやってくるだろう。

モディ氏がスワミに会いに来た2004年に心を引き戻す。インタビューの後、スワミは私をお呼びになり、「将来の首相だよ」とおっしゃった。そのときには信じていなかった。これは黄金時代の夜明けけなのだろうか？」

モディ氏は2014年5月18日には、総選挙での勝利に感謝するため、ヴァラナシのダシャシュワメード　ガートにてガンジス川へのアーラティを執り行いましたが、会場にスワミの写真が何枚も飾られていたことも大きな話題となりました。

出典元：

http://www.saibabaofindia.com/indian_prime_minister_narendra_modi_with_bhagawn_sri_sathya_sai_baba.htm